

嵯峨一郎教授の退職記念号に寄せて

熊本学園大学 学長 岡 本 恵 也

嵯峨一郎教授の退職記念号に一文を草する機会をうれしく思います。1984年（昭和59年）4月、当時の熊本商大（現熊本学園大）商学部にて嵯峨教授は、経済学部には赴任しました。熊本商大（現熊本学園大）勤務の同期生として今日まではほぼ30年同じ釜の飯を食ってきたことになります。私たちは学園大勤務同期生というだけでなく、嵯峨一郎教授は東京大学、私は九州大学ですが、大学入学年度も同じ1961年度、年齢も一緒です。

私たちは1960年代後半から全国の大学を巻き込んだ大学闘争の時期をとともに経験しました。嵯峨教授は大学闘争の震源地、本丸ともいえるべき東京大学の大学闘争の学生リーダーとしてその名をはせました。しかし、大学闘争の終焉を象徴した安田講堂の落城と運命をとともにして彼はリーダーとしての責任を全うしました。その後、学園大で出会うまでの彼の消息はつまびらかには知りませんが、嵯峨教授の専門分野である自動車産業を中心とした労使関係論の秀逸な著作には、無味乾燥になりがちな学術論文とは趣をかなり異にする文化的、人間論的特長が色濃いのは大学闘争の経験とその後の思索が反映しているからではないかと思います。

嵯峨教授は本学就任後、時を経ることなく、学生部長、大学院研究科長、商学部長、図書館長という本学園の教学の要職を勤めてこられました。そして、思いがけず、2009年8月に私が学長に就任すると共に理事、常務として、ともに大学運営の重責をになうことになりました。かれの誠実、おらかな人柄は教職員が等しく認めるところです。彼の協力なしには私は学長の重責をととても担えなかったと思っています。私たちは何はともあれ同じ時期に共通の経験をし、同じような思想的遍歴を経ているように思えます。それだけに私は安心して学長職に専念できています。

嵯峨教授がなお元気にバイクを乗りこなし、大学のためにいま少し力を尽くしてくれることを切に願います。